

家族に捨てられたいFB捜査官と運び屋が、
 紛失したICチップを探るために羊の毛刈り
 をして協力し、悪の組織を倒して家族を救う
 話

↓
 ↓
 ↓
 ↓
 ↓
 ↓

4/21

登場人物

シカッター (ハ50)

FB捜査官。仕事人間で、過去に妻子に捨てられている。

リタ (ハ30)

運凸屋。

マイケル (ハ15)

羊飼いの少年。捨て子で、祖父母に育てられた。

ボス (ハ40)

悪の組織のボス。

上官

部下

子

○ニユーシーランド、街並み、道路

街中を猛スピードで走るバイクを追う

車。

車がエンストし、シワシワのシャツに

くちびれたスーツの男、シャツワフ

○が運転席から降りて来る。

路肩のスポーツカーの運転手に、手帳

を見せる。

シャツワフFBエカ。犯人を追跡中。車を借

ります

男 「は？ あい、何なんだ！」

男を無理矢理押しつけてスポーツカー

に乗り、再びバイクを追跡。

○郊外

バイクに追いついたシャツワフが、バイク

ワのタイヤを撃つ。

前輪に命中。

リタへ30「あん、もう！」

バイク、蛇行し、古びた木造倉庫に突

つ込む。

シヤッワ「今日こそ非がさんぞ、運び屋R」

リタ「しつこい男はモテないわよ、シヤッ

ワ

シヤッワ「あかげさんどつくにカミさんに

非がられてるよ」

リタ「中子ものは無いって？ ともアタシ

にはあるの。この仕事だけは失敗するわけ

にはミ

×エと羊の声。

数頭の羊が二人の周りに寄ってくる。

シヤッワ「何だ？ 羊のイサ倉庫か？ たのか

リタ「あ、ち行きなさい！」

髪を食まられるリタ、シヤッをしから

れるシヤッワ。

リタの腕の端末から電子音。

音声 「対象と1m以上離れた」

顔色が変化するリタ。

リタ 「ミウリ、エド4ツプを失くした！」

シヤック 「何？」

リタ 「今回の仕事の品物よ！ GPSが入

ってるのミニ移動してる？ まさか今の羊

ロミニ

ワンワン！ とかの吠える声。

シヤック 「牧場主が来る。一旦隠れよう」

〇倉庫外、木の陰

端末に話しかけるリタ。

リタ 「ホス、手違いで品物がオストし」

ホス 「40」羊だと？ 殺して回収しろ」

リタ 「知ってるでしょ、殺しはしかり全義

なの」

ホス 「博愛で実にいっいお。十五分後に部下

を送る。品物を引き渡せなければ——わか

ってるか

リタ 「ミニ」

通話切れる。

少し離れた場所を同時に通話を終えた
 シヤツワ、牧場へ向かって行く。

リタ 「向うる気？」

シヤツワ 「上官から予算の許可を得た。この

羊たちを、牧場ごと買い上げる」

X X

羊飼いの少年、マイケル（15）と

可シヤツワ。

マイケル 「羊は売れぬぞ」

シヤツワ 「ミニ金額不足か？ならば1、5

倍のミニ」

マイケル 「お金じゃねえぞ。この子たちは

ミニミニいちかんだちが遺してくれた、お

の家族なんだ。家族は売れぬぞ。お引き取

りくおせえ」

頭を下げるマイケル。

シヤツワ 「ミニ」

X X

リタ 「どうにかしてチップを回収しなさい

シヤツワ 「とにかく、まずはあの少年のこと

も手分けして調べよう。なあRーいいや

り夕。一時休戦としないか？

り夕「ミミ止むを得ないわね」

「張々握手する二人。」

X X

近所の家を回り「聞き込みをする二人。」

住人「ああマイケル？ あの子は捨て子で

ね。あそここのじいさんとばあさんが、まる

こ本当の孫みで之に可愛がってたまし

住人「じいさんが羊毛を刈って、ばあさん

が羊毛人形やセーラーやらこしらえて生計

を立ててたよ。皆がばあさんは去年、じい

さんも先日死んじゃまってね。あの子も大変

だらうにミミし

X X

シヤツ「大体情報はわかったな。あとは、

どう交渉するかミミし

り夕「バカね、子めも相手に交渉しよ

うとやるからが、Xかのよ。ほら、今の家で

これをもらってきたくし

着たさめた農夫の服色差し出りりた。
 シカツク「おりまさか、俺に二枚を着るとい
 りた。」「いいこと、アタシ達は今から夫婦に
 なるの。羊の毛刈りポランテアのね。そ
 ろして潜入して、千ツプを回収するのよじ
 シカツク「そとうまく運ぶかミニ？」
 ため息をつくシカツク。

の牧場

くたびれた農夫姿のシカツクとりた。
 リタ「おじい様が七くなられて大変でしょ
 う。毛刈りポランテアのりサとミニ」
 シカツク「お突くりた。」
 シカツク「ワ「ミニミジエ「4スだ」
 マイケル「助かるだ！ ありがとうじゃ仕事か
 多くて、困ってたぞよ！」
 羊小屋に二人を案内するマイケル。
 十数頭の羊がいる。
 マイケル「早速毛刈りをお願いするぞ！」

シカッワ「ありあり、やり方なんて知りま

シカッワを小突くりタ。

リタ「任せこちあうたい！」

マイケル「？ じゃあ、おらは中で作業して

るぢ。何かあったら声をかけこおくれ」

室内に去るマイケル。

呆れるリタ。

リタ「アナタ本当に演技が下手ぬま」

シカッワ「ま無茶言うな」

リタ「はいはい。サツサと刈りましょ」

バリカンを手に、手際よく毛刈りもこ

なすりタと、対象的に毛をポロポロに

刈るシカッワ。

リタ「なんて不器用なの、アナタ」

シカッワ「マはどの羊が持つてる」

リタ「刈り終わったら教えてるわ。ほら、早

く仕事して、シカッワ！

シカッワ「まわかたよ、リサ」

毛刈りも子シカッワとりタ。

× × ×

り夕 「あとはあの親子羊の二頭だけなんだ
けど、こゝ暴れて近寄れないの」

他の羊達より一際大きな雄羊が、一頭
の子羊を守りように立ち威嚇している。

シカツ 「俺が押さえとておく。その間に刈れ
り夕 「オーケー」

突然、牧羊犬が吠える。

一台のバイクが近づき、黒スーツの男
が降りる。

男が牧場に向けてマシンガンを構える。

り夕 「ホスの部下だわ！まさか、皆殺し

に可なりもり！？」

シカツ 「ワが腰の銃を抜こうとする。

シカツ 「間に合うか？」

押さえつけられていた雄羊がシカツ

を払いのけ、部下に向かって突進する。

驚き、まともに喰らう部下。

部下 「ぐわあッ！」

シカツ 「ワッ、よし！」

部下の右手を正確に撃ち抜くシカツ

鏡を取り落とし、逃げる部下。

部下 「ワソッ！」

り 「やるじやない！」

物音にマイケルが出てくる。

マイケル 「何の騒ぎだべ？」

雄羊を指すシカツク。

シカツク 「こいつが柵を越えたおけだ！」

マイケル 「ああ、ハリーはうちで一番の暴れ

ん坊だからな。ありがとうだべ！」

打つて変わった大人しくなり、シカツク

クのあとをつりて歩く雄羊。

シカツク 「なつかれたミニミニのか？」

り 「この子の毛刈りは任せろわ。アタシ

は刈った毛を運んでくるわね！」

毛を持ち、マイケルの元へ行くりタ。

シカツク 「ミニ親おから暴れるなよ！」

バリカンで雄羊をそりと刈って行く。

子羊も大人しく刈られ、毛をマイケル

の所へ運ぶシカツク。

シカツク 「この毛はどうするんだ？」

マイケル「洗って、脂や汚れを落としてから
乾かすわ。それはおらがやるから、シエー
ムスさんとりサさんには別の仕事をお願い
したいわ」

シカツク「今度は何をやるの？」

○室内、作業場

机の上にフェルトや毛糸が沢山置かれ
ている。

マイケル「売りの物の、羊毛人形と編み物を頼

むわ！」

シカツク「人形に編み物？ この俺が？」

シカツク「を小突くりや。」

リタ「任せろちよらわい！」

シカツク「ミミ」

作業を始める二人。

手際よく次々と人形やセーラーを作る

リタ、不格好な人形をようやく一匹完

成させるシカツク。

リタ ヲ 貝本をよく見て。大ききおるわよ
 シカ ヲ ヲ ミミ今度はどうお
 リタ ヲ 小きおき。まるでさッきの親子羊ね。
 いい？ よく見てて、こらよ
 シカ ヲ 今本を見せ、あッという間
 に 一体完成させるリタ。
 シカ ヲ ミミ本当に器用おな、お前
 リタ ヲ アナタこそ、本当に不器用ね
 シカ ヲ ミミ仕方ないわらう。俺は三十年
 間、銃しが握ッてこなかッた
 この手のガンたこを見つめるシカ
 シカ ヲ ヲ 娘の手の感触も、最後に手を握ッ
 左のはいつかお思い出せん
 リタ ヲ ミミ
 シカ ヲ ヲ ミミとこらで、キッアはミミ
 リタの端末が鳴る。
 ポス ヲ リタ。お前の答えはよくわかつたよ。
 ラストキヤンスをやろ。一時間以内に、G
 303に品物を持つて一人お来い。十分毎
 一人おがキを殺していく

通話が切れる。

り夕 ヲ ミミシ

シヤツ ワ ヲ ミミシ 子どもも人質に取りられていた

のか。チツプは？

り夕 ヲ ミミシ 人形の中のだれかよ。人立毛の

中にチツプを編み込んで、頭に植毛していい

たの。それが羊の毛に混じってちかっただのね。

一個おつ調べる時間はなにから、全部持つ

之行かなきか。マイケルにうまく言ってお

いまくれる？ ダーリン

シヤツ ワ ヲ ミミシ

人形を袋に入れ、バイクで出ていく

夕。

× ×

マイケル っ あれ？ リサさんは？

シヤツ ワ ヲ 人形の出張販売に行っ

マイケル っ なるほど！

り夕の編んだセーターも手にするシヤ

ツワ。

マイケル っ シエーラスさんはどこに行くの？

シカツク、妻の手伝いに。トラツク借りるぞ

トラツクでリタのバイクを追うシカツ

ク。

途中の土産物店にハンドルを切る。

○街外れの廃墟

黒スーツの男が数人、リタを囲む。

スキヤナリを持つ部下。

部下 「ありました、この人形さあ！」

ボス 「手間かけやがって。腕が落ちたなり

タシ

リタ 「時間は守ってあげてよ、子ども達を返

して！」

ボス 「惜しかつたな。三秒オーバーしたし

子 「ママミニミ！」

外から部下の怒号。

部下 「なんぞ！ あい、止まれ！」

トラツクが廃墟に突っ込んでくる。

即座に銃を構える部下たち。

ボス っ何者だ？

ドアが開き、運転席から羊のマスリと

セーラーを着たシカツクが降りてくる。

シカツク っミニウールマシだ

ボス っ殺せ

部下たちより素早く銃を抜き、全員の

手足を撃ち行動不能にさせるシカツク。

シカツク っ無事か

ワタ っミニヤるじやない

シカツク っ銃だけを握ってきただけ

一室のドアを開けると、数十の子ども達がワツと二人にかけ寄る。

シカツク っおいおいミニ何人いるんだ？

ワタ っさあ、教えてないわ。スラウの子は

みんなアタシの子よ

人質だ、お子がシカツクの車を掴む。

子 っありがと、ウールマン！

シカツク っミニああ

おそろおそろ握り返すシカツク。

微笑むワタ。

子ども達 っ ねえ、これわーイルマシの人形っ

っ これ欲しー、ママ!

っ あたしも!

リタ っ ミミ大人気ね、ウーイルマシ

シカッ っ っ 売れたとマイケルに伝えよう

リタ っ きっ と喜ぶわ

人形の中に、シカッの作っ 古サイズ

の不到ろいなニっ を見つけ、車に取る

シカッ っ

シカッ っ ニれと普通のモ一匹、俺も買う

リタ っ 飾るの?

シカッ っ ミミ来目、娘の誕生日なんだ